



# しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

## なつ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2017年版]

	しよめい さくしやめい しゅつぱんしや	ないよう
えほん	<p>「わたしのそばできいていて」</p>  <p>リサ・パップ 作 菊田 まりこ 訳 WAVE出版</p>	<p>マディは字をよむことがあまりじょうずではありません。がっこうのじゅぎょうで、こえを出して本をよむときも、つかえてしまってクラスメートにわらわれてしまいます。そんなとき、図書館で出あった1匹きの犬が、マディのまいにちをかえてくれました。</p>
えほん	<p>「いえができるまで」</p>  <p>砺波 周平 取材・構成・写真 ひさかたチャイルド</p>	<p>いえをつくるためには、たくさんの人たちがいろいろなしごとをしています。だいくさん、さかんやさん、たたみやさん、サツシやさん、だれがどのようなしごとをして、いえをかんせいさせているのかな？ はたらく人へのかんしゃが生まれるえほんです。</p>
えほん	<p>だんしゃく 「そらいろ男爵」</p>  <p>ジル・ボム 文 ティエリー・デデュ 絵 中島 さおり 訳 主婦の友社</p>	<p>トリがとぶ青い空と、どくしょが大すきなそらいろ男爵は、あるときせんそうのためひこうきにのることになりました。せんそうをおわらせるため、男爵がバクダンのかわりに、ひこうきからなげおとしたものとは…。</p>
えほん	<p>「きつねのおきやくさま」</p>  <p>あまん きみこ 文 二俣 英五郎 絵 サンリード</p>	<p>はらぺこのキツネは、やせたヒヨコに出あいふとらせて食べようとしたが、そのうちヒヨコに「おにいちゃん」とよばれ、おきやくさまとしていえにつれていきました。アヒルやウサギともいっしょにすむようになったころ、山からオオカミがやってきて…。</p>
えほん	<p>「一日だけうさぎ」</p>  <p>原 知子 ぶん こぼ ようこ え くもん出版</p>	<p>今日は、年にいちどの「うさぎの日」。町のみんながうさぎになってしまう日で、学校にもかいしゃにも、ぴよんぴよんはねながらいきます。うさぎになってみると、いつもはあたりまえだったことも、あたらしいはっけんがいっぱいいます。</p>

	しよめい さくしやめい しゅつぱんしや	ないよう
としよ	<p>「へっちやらトーマス」</p>  <p>パット・ハッチンス 文・絵 小宮 由 訳 大日本図書</p>	<p>字がよめないトーマスはつぎからつぎにもんだいをおこしますが、なにがおきても「かんけないね。」とまったくへっちやら。でも、ある日とうとう大じこをおこしてしまい、はんせいしたトーマスですが…。</p>
としよ	<p>「こぶたのむぎわらぼうし」</p>  <p>森山 京 作 佐野 洋子 絵 小峰書店</p>	<p>子どもたち一人一人に、ぶたのお母さんがむぎわらぼうしをあんでくれました。みんなそれぞれ、ぼうしにすてきなめじるしのかざりをつけますが、一ばん小さいおチビちゃんだけは、すてきなかざりを見つけられませんが…。そこで、外へとさがしに出かけますが…。</p>
としよ	<p>「まほうのじどうはんばいき」</p>  <p>やまだ ともこ 作 いとう みき 絵 金の星社</p>	<p>こうへいはがっこうのかえりみちで、ポタンをおすと、そのときひつようなものが、なんでも出てくる、じどうはんばいきに出あいました。ところがある日、そのべんりなじどうはんばいきが、とつぜんきえてしまったのです！</p>
としよ	<p>「せかいいちゆうかなねこ」</p>  <p>ローラ・ドリスコル 文 鈴木 勝久 絵 村山 寿美子 訳 学研</p>	<p>「あっ、あれを見ろ！」火事のげんばで、もえさかる火の中へとびこんでいったネコを見つけ、しょうぼうしさんがさけびました。ニューヨークでじっさいにおきた、ゆうかななおかあさんネコのものがたりです。</p>
としよ	<p>てがみ 「あひるの手紙」</p>  <p>朽木祥 作 ささめや ゆき 絵 佼成出版社</p>	<p>ある日、1年生のクラスに「あひる」とだけかかれたふしぎな手紙がとどきました。手紙を出した人は、どうやら、ひらがなをおぼえたばかりのようでしたが…。ある小学校へじっさいにことどいた手紙をきっかけに、つくられたおはなしです。</p>